

科目ナンバリング		G-SCI11 60579 PO55			
授業科目名 <英訳>	数学・数理科学における海外研修I Overseas Training in Mathematics and Mathematical Sciences I	担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 教授 前川 泰則		
配当学年	修士	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
<p>本科目では、学生は各自の研究テーマと同分野の研究者が所属する海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在し、研究活動ならびに現地の研究者と研究交流を行う。海外渡航を通じて各自の研究分野に関する知識を深めるとともに、より高い研究技能を身に付け、国際的に活躍する人材の育成を図る。滞在先の海外研究機関および受入教員は、学生が指導教員と事前に相談の上で決める。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 大学院における学生各自の研究テーマについて、海外渡航を通じてそれに関する知識を深め、より高い研究技能が身に付く。 (2) 英語で研究討論ができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>(1) 担当教員によるオリエンテーション (2) 各指導教員による指導の下、各自で海外渡航の準備 (3) 海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在 (4) 研修報告書の作成（海外渡航の終了後）</p> <p>本科目は大学院横断教育コースである「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」を構成する科目であり、本科目の詳細はコースwebサイトにも掲載する：https://www.math.kyoto-u.ac.jp/ja/ktgu/training</p>					
【履修要件】					
<p>(1) 大学院における主要な研究テーマが数学・数理科学を基盤とする分野であること。 (2) 大学院横断教育コースの「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」に登録すること。 (3) 各自の研究について英語でコミュニケーションをとるための最低限の語学力があること。 (4) 大学等からの助成金の利用も含め、海外渡航費用が確保できる見込みがあること（助成金等の情報については、数学・数理科学コース担当事務 050sgu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp に適宜お問い合わせください）。 (5) 海外渡航の2週間前までに学研災付帯海外留学保険に加入すること。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>1．海外研修前の準備（20％）、2．海外研修中の活動（60％）、3．海外研修後の総括（20％）、の三つの観点に基づき、総合的に評価する。評価の判断資料として、学生は以下の書類を提出する。</p> <p>(1) 海外渡航計画書（所定様式。渡航開始予定日の2か月前までに数学・数理科学コース担当事務に提出）</p>					
----- 数学・数理科学における海外研修I(2)へ続く -----					

数学・数理科学における海外研修I(2)

- (2) 滞在時におけるActivity Report (所定様式)
- (3) 海外研修の総括に関する研修報告書 (所定様式)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特に無し。

(関連URL)

<https://www.math.kyoto-u.ac.jp/ja/ktgu/training>(数学・数理科学イノベーション人材育成強化コースのwebサイト)

[授業外学修(予習・復習)等]

本科目の履修による海外渡航を希望する場合は、指導教員の指導の下、渡航開始予定日の2か月前までに海外渡航計画書(所定様式)を提出すること。計画書の内容によっては海外渡航が認められない場合があります。

(その他(オフィスアワー等))

- (1) 数学・数理科学に関係した分野であれば、どの分野の方でも受講できます。将来、国際的に活動の幅を広げることに意欲のある大学院生は本科目を積極的に活用してください。
- (2) 渡航先の外務省危険レベルの変動状況によっては、渡航の取り消しを命じる場合があります。
- (3) 1か月を超える渡航についても認める場合があります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-SCI11 60580 PO55				
授業科目名 <英訳>	数学・数理科学における海外研修II Overseas Training in Mathematics and Mathematical Sciences II	担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 教授 前川 泰則		
配当学年	修士	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
<p>本科目では、学生は各自の研究テーマと同分野の研究者が所属する海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在し、研究活動ならびに現地の研究者と研究交流を行う。海外渡航を通じて各自の研究分野に関する知識を深めるとともに、より高い研究技能を身に付け、国際的に活躍する人材の育成を図る。滞在先の海外研究機関および受入教員は、学生が指導教員と事前に相談の上で決める。</p>					
[到達目標]					
<p>(1) 大学院における学生各自の研究テーマについて、海外渡航を通じてそれに関する知識を深め、より高い研究技能が身に付く。 (2) 英語で研究討論ができるようになる。</p>					
[授業計画と内容]					
<p>(1) 担当教員によるオリエンテーション (2) 各指導教員による指導の下、各自で海外渡航の準備 (3) 海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在 (4) 研修報告書の作成（海外渡航の終了後）</p> <p>本科目は大学院横断教育コースである「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」を構成する科目であり、本科目の詳細はコースwebサイトにも掲載する：https://www.math.kyoto-u.ac.jp/ja/ktgu/training</p>					
[履修要件]					
<p>(1) 大学院における主要な研究テーマが数学・数理科学を基盤とする分野であること。 (2) 大学院横断教育コースの「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」に登録すること。 (3) 各自の研究について英語でコミュニケーションをとるための最低限の語学力があること。 (4) 大学等からの助成金の利用も含め、海外渡航費用が確保できる見込みがあること（助成金等の情報については、数学・数理科学コース担当事務 050sgu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp に適宜お問い合わせください）。 (5) 海外渡航の2週間前までに学研災付帯海外留学保険に加入すること。</p>					
[成績評価の方法・観点]					
<p>1．海外研修前の準備（20％）、2．海外研修中の活動（60％）、3．海外研修後の総括（20％）、の三つの観点に基づき、総合的に評価する。評価の判断資料として、学生は以下の書類を提出する。</p> <p>(1) 海外渡航計画書（所定様式。渡航開始予定日の2か月前までに数学・数理科学コース担当事務に提出）</p>					
----- 数学・数理科学における海外研修II(2)へ続く -----					

数学・数理科学における海外研修II(2)

- (2) 滞在時におけるActivity Report (所定様式)
(3) 海外研修の総括に関する研修報告書 (所定様式)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特に無し。

(関連URL)

<https://www.math.kyoto-u.ac.jp/ja/ktgu/training>(数学・数理科学イノベーション人材育成強化コースのwebサイト)

[授業外学修(予習・復習)等]

本科目の履修による海外渡航を希望する場合は、指導教員の指導の下、渡航開始予定日の2か月前までに海外渡航計画書(所定様式)を提出すること。計画書の内容によっては海外渡航が認められない場合があります。

(その他(オフィスアワー等))

- (1) 数学・数理科学に関係した分野であれば、どの分野の方でも受講できます。将来、国際的に活動の幅を広げることに意欲のある大学院生は本科目を積極的に活用してください。
- (2) 渡航先の外務省危険レベルの変動状況によっては、渡航の取り消しを命じる場合があります。
- (3) 1か月を超える渡航についても認める場合があります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。